

「ちゃくちゃくプロジェクト～九州の5年で見える道づくり～」*

“Chaku Chaku Project” in Kyushu aiming at completion of a road project within five years *

淡中泰雄**

By Yasuo TANNAKA**

1. はじめに

道路整備など社会資本整備を進めるにあたり、スピーディなサービス提供、アカウントビリティ（説明責任）の向上が求められている。九州地方整備局では平成15年度から道路事業について「ちゃくちゃくプロジェクト（以下「ちゃくプロ」と略す）の名のもと、新たなプロジェクト管理（道路整備マネジメント）の仕組みを導入している。

今年度で取り組み5年目を迎えた「ちゃくプロ」の現状について紹介する。

2. 「ちゃくプロ」の枠組み

図-1が「ちゃくプロ」による成果と説明責任を重視したプロジェクト管理（道路整備マネジメント）の枠組みである。まず事業全般として厳しい財政制約の下、スピーディに道路サービスを提供するため「選択と集中」をより一層進め、コスト削減等の工夫をしながら早期の事業効果発現を目指す。次に、効果が大きく条件の整った事業を対象事業に選定して、明確な目標を一般に公表し、その目標達成のために予算・体制の確保や用地確保等に関係者が一致して努力する。さらに、概ね1年後に達成状況を評価・公表し、計画を更新する、というのが基本的な枠組みである。

（1）対象事業の選定

ちゃくプロでは、3つの要件（①投資効果が高い、②円滑な事業進捗の環境が整っている、③5年以内に供用可能）を満たす事業区間を選定している。選定に際しては、地域での支援体制や用地の確保状況等、実施可能性を確認するとともに、各事業区間の供用までに必要な予算や執行体制及び効果などを考慮して選定する。

*キーワード：道路整備、行政マネジメント、業績目標

**正員 国土交通省都市・地域整備局都市計画課
(前九州地方整備局道路部道路計画第一課)
(東京都千代田区霞が関2-1-3
TEL03-5253-8111、FAX03-5253-1590)

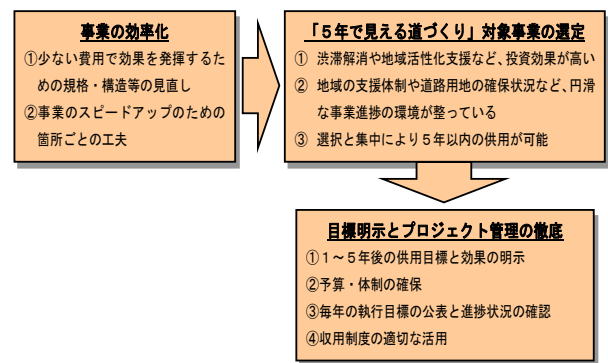


図-1 「ちゃくプロ」の枠組み

（2）目標明示と事業進捗管理

「ちゃくプロ」選定事業については、事業の整備効果目標と明確な事業目標（5年以内の供用目標、各年度の進捗目標）を設定し公表するとともに、次年度に目標の達成状況について評価（フォローアップ）しHP等で公表している。この供用目標及び進捗目標は、整備局内、事業担当事務所及び地元の県・市町村等関係者共有の目標として定め、関係者が一つの明確な目標に向けて努力する仕組みとなっている。

また、プロジェクト管理は予算と時間の同時管理を行うことであり、個別事業毎の進捗管理を行っている。

3. 「ちゃくプロ」の重点事項

「ちゃくプロ」では、特に「一般への情報提供の充実」「プロジェクト管理の強化」に重点をおき取り組みを行っている。

（1）一般への情報提供の充実

「ちゃくプロ」は、目標を公表し、それを実現するという「有言実行」の取り組みである。ずっと工事をしているのに、「いつになったらできるかわからない」また「何のための工事かわからない」といった一般の方の不満に対し、「ちゃくプロ」では、整備効果・供用目標・進捗目標を明示することで、情報提供を充実させ一定の説明責任を果たすことを目的としている。

また、事業に関する情報をより多くの方々にとって頂

くために、「ちゃくプロ」選定事業箇所では、現地看板を設置し、供用目標や事業効果等を明示している（写真－1）。



写真－1 「ちゃくプロ」現地看板の例

また、関係市町村の協力により、広報にも紹介されるなど地域の方々への情報提供も充実させている（写真－2）。



写真－2 広報事例（大村市）

(2) プロジェクト管理の徹底

「ちゃくプロ」でのプロジェクト管理とは、予算と時間の同時管理である。両面のプロジェクト管理を実現するために、次の3点に留意して運営している（図－2）。

a) 関係者の意識統一

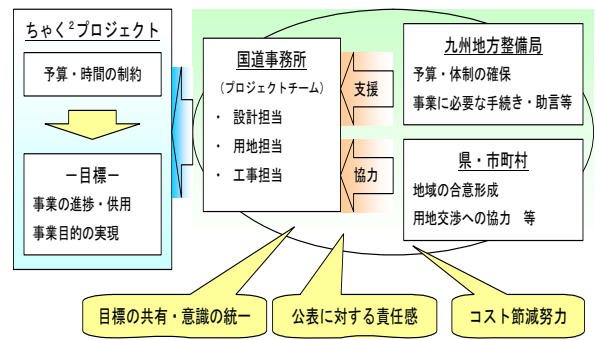
目標設定の検討段階において、効果・コスト・期間内での実現可能性について、担当者・関係者等が十分議論することにより、関係者の意識の統一を図り、実現可能な自らの目標として設定を行っている。

b) 関係者の責任の自覚

目標を公表することにより、地域に対する責任として、事業に携わる職員が目標達成のためにどうすべきかを考える環境を作り、関係者の自覚を高めている。

c) コスト縮減の不断の取り組み

目標とする供用年度までに投資可能な予算は限られており、より早く効果的に目標を達成するために、関係者はコスト縮減に向けた不断の努力を行っている。



図－2 「ちゃくプロ」によるプロジェクト管理

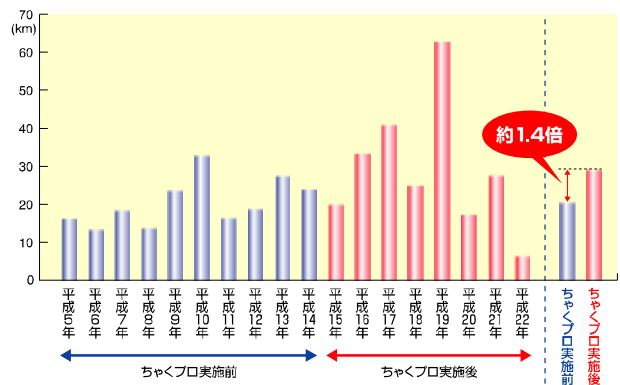
4. 「ちゃくプロ」導入後の効果

「ちゃくプロ」実施5年目を迎え、事業に対する様々な効果が現れている。

(1) 事業効果の早期発現

図－3は、「ちゃくプロ」実施前、平成14年度までの10年間での道路供用延長実績と「ちゃくプロ」導入後の平成15年度から22年度までの計画供用延長である。

整備効果の高い事業に整備を集中させた結果、ちゃくプロ導入前のH5～H14の年間平均供用延長が約21kmに対して、ちゃくプロ導入後の年間平均供用延長は年間約29km（想定）と約1.4倍に増加している。供用年次が早まることにより、事業効果が早期に発現していると言える。



図－3 年度毎の供用（目標）延長

(2) 関係者間の連携強化

各事務所においては、目標達成に向けた取り組みとして事務所長をリーダーとするプロジェクトチームを組織し、関係者間の連携強化が図られている。

また、事業箇所毎に短・中期的なわかりやすい工程表を作るなどにより、詳細・具体的な工程計画を立案し、事業の進捗や課題に関する情報が関係者間で共有できるような工夫を行い、関係各課が連携して（調査・設計、用地取得、工事発注等）業務にあたる取り組みが行

われている。

(3) 目標公表による地域の協力

供用目標を公表したことにより、地域の新聞・広報等に各地域のバイパス等の整備が、いつを供用目標としているか、また供用に伴いどのような効果があるのか、大きく取り上げられるようになった。

また、地方議会においても直轄国道の供用時期について関心が高く、「ちゃくプロ」で公表した供用目標と事業効果を示すことで、地域の方々によりわかりやすい説明が可能となっている。また、沿線自治体からも応援・協力する積極的な姿勢を示していただいている。

さらに、用地確保に際して、地権者の方から、「何時できるのか」と聞かれることも多い。このような場合、従来は、曖昧な返答しかできなかった。しかし、「ちゃくプロ」の事業区間箇所であれば、明確な目標を示すことができ、地権者の協力も得られやすくなったという事例も見受けられるようになった(図-4)。

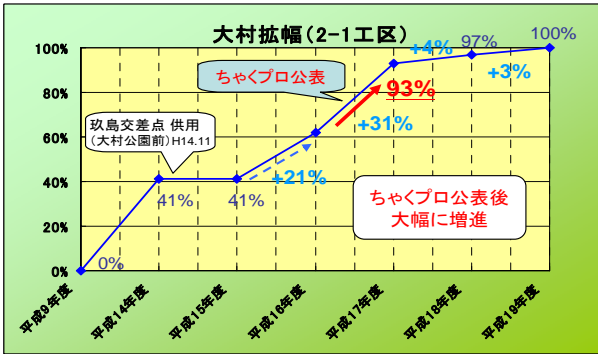


図-4 大村拡幅の用地進捗事例

(4) コスト節減

コスト節減についても、予算制約の下で設定した目標を達成するためには、コストを節減せざるを得ないという意識が生まれ、「ちゃくプロ」が職員の知恵や工夫を引き出す効果を発揮している。

その結果、設計段階のみならず、各工事現場においても環境に十分配慮しながら、新技術・新工法等を積極的に活用するなど、様々な場面においてコスト節減策が講じられている。

(5) 担当職員の意識

各プロジェクトの目標が、関係者間で十分議論され、組織全体として責任を持って公表されたものであるため、事業方針は個人の価値判断や時々の状況に左右されることなく安定している。また、自分が参画するプロジェクトの目標と役割が明確であることから、職員の地元関係者等への説明も明快であり、事業を担当する職員にとっても大きな達成感を持って取り組むことができている。

5. 「ちゃく2プロ2005」の達成状況

平成17年度に公表した「ちゃく2プロジェクト2005」では、九州管内の道路事業のうち改築事業68区間171km、交通安全事業76箇所、道の駅3箇所、電線類地中化事業33箇所、防災震災事業360箇所、計540区間箇所を選定し、事業毎に設定した目標がどの程度達成されたかを検証し、その結果を平成18年7月に公表した(表-1)。

目標に対する達成状況は、供用目標が約90%(目標174区間箇所に対して156区間箇所が達成)、進捗目標が全体の74%の区間・箇所で目標を達成することができた(図-5)。一方、目標を達成できなかった事業区間箇所については、個別事業毎に検証を行いその理由等を併せて公表している(未達成区間箇所の理由等を含めた具体例の詳細は、付録記載のHP参照)。

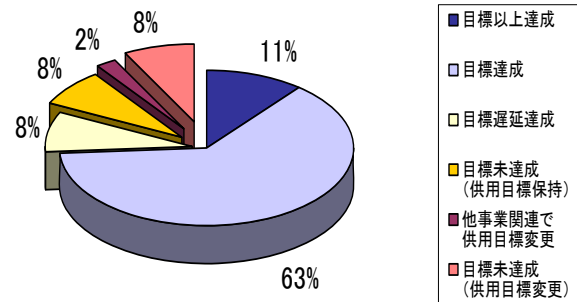


図-5 ちゃく2プロ2005進捗目標の達成状況

表-1 ちゃく2プロ2005供用目標の達成状況

	H17年度内 供用目標①	H17年度内 供用実績②	達成率 ②/①	H18.6月末 供用実績③	達成率 ③/①	H17~21 供用目標
改築事業 (バイパス・拡幅事業等)	41.4km (25区間)	39.9km (21区間)	96.4%	41.1km (24区間)	99.3%	170.6km (68区間)
歩道整備・交差点改良 (交通安全事業)	55区間 (19.7km)	42区間 (16.2km)	76.4%	46区間 (17.5km)	83.6%	76区間 (25.7km)
「道の駅」整備	2箇所	2箇所	100.0%	2箇所	100.0%	3箇所
電線類地中化事業 共同溝	1箇所 (7.1km)	1箇所 (7.1km)	100.0%	1箇所 (7.1km)	100.0%	2箇所 (16.2km)
電線共同溝	13箇所 (22.0km)	9箇所 (15.4km)	69.2%	9箇所 (15.4km)	69.2%	31箇所 (54.7km)
防災対策・震災対策事業	3箇所	2箇所	66.7%	2箇所	66.7%	30箇所
防災対策 震災対策	75箇所	79箇所	105.3%	80箇所	106.7%	330箇所
区間・箇所計	174区間・箇所	156区間・箇所	89.7%	164区間・箇所	94.3%	540区間・箇所

※区間・箇所計には、震災対策の橋梁数も含まれる

表-2 ちゃくプロ2006供用目標

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	H18~22 供用目標
改築事業 (バイパス・拡幅事業等)	24.9km (16区間・箇所)	62.9km (18区間・箇所)	17.4km (7区間・箇所)	27.7km (7区間・箇所)	6.6km (3区間・箇所)	139.5km (51区間・箇所)
歩道整備・交差点改良 (交通安全事業)	58箇所 (16.7km)	10箇所 (2.1km)	3箇所 (1.2km)			71箇所 (20.0km)
「道の駅」整備		1箇所	1箇所			2箇所
電線類地中化事業 共同溝		1箇所 9.1km				1箇所 9.1km
電線共同溝	14箇所 (25.1km)	6箇所 (7.2km)	5箇所 (6.8km)	2箇所 (3.8km)	2箇所 (4.5km)	29箇所 (47.4km)
防災対策、震災対策事業						
防災対策	8箇所	14箇所				22箇所
震災対策	112箇所	92箇所				204箇所
区間・箇所計	208区間・箇所 (66.7km)	142区間・箇所 (81.3km)	16区間・箇所 (25.4km)	9区間・箇所 (31.5km)	5区間・箇所 (11.1km)	380区間・箇所 (216.0km)

6. 「ちゃく2プロ2006」の概要

(1) 「ちゃく2プロ2006」の策定

平成18年7月、前述の「ちゃくプロジェクト2005」の達成状況の発表と同時に、新たなプロジェクトの追加と供用・進捗目標の更新を踏まえた「ちゃくプロジェクト2006」を策定し発表した(表-2)。

a) 平成18~22年度の5ヶ年の供用目標

→ 380 区間箇所(約216km)

(主な事業)

改築事業 51 区間箇所(約140km)

交通安全事業 71 区間箇所(20km)

b) 新たに53 区間箇所(約33km)の供用目標を追加

c) 平成18年度の供用目標

→ 208 区間箇所(約67km)

d) 平成18年度の進捗目標

→ 公表した380 区間箇所に対し344の進捗目標を設定(用地関係38 工事関係302等)

(2) 「ちゃく2プロ2006」の効果

「ちゃくプロ」の事業効果は、現況値に対してちゃくプロ公表区間が供用した時点との比較により算出している。ちゃくプロジェクト2006の主な事業効果を以下に示す。

表-3 ちゃくプロ2006の効果

ちゃくプロ2006の主な事業効果(平成22年度末には・・・)
1. 交通の円滑化 ☆主要渋滞ポイント⇒253箇所のうち47箇所が解消もしくは緩和
2. 産業振興の支援 ☆新たに11市町村がICから30分圏内に!
3. 観光産業の支援 ☆主要観光地の日帰り圏(約2時間)の人口が増加(約615万人)
4. 安全(交通事故の軽減) ☆事故危険箇所の対策 ⇒185箇所のうち未対策の69箇所(H17年度末)全て対策実施
5. 防災・減災 ☆事前通行規制区間が9.4km解消・回避

7. 「ちゃくプロ」の課題と今後

「ちゃくプロ」導入以来4年の取り組みにより、関係

者が協力して目標達成に向け工夫・努力する仕組みが定着した。これは、事業の目的・効果を道路利用者だけでなく、広く一般に示しつつ、目標の設定・公表をカギにプロジェクト管理を強化するという共通の考えを関係者一人一人が意識し、実行に移した結果と言える。特に、事業の実施について具体的な整備効果と目標を公表し、その達成状況等を評価できたことは重要な成果、効果である。

しかし、一方で課題も残されている。①関係者間の情報共有やスケジュール管理の効率的な継続、②厳しい財政制約の下で地域の要請に応えつつ、実現可能な目標の設定、③継続的なコスト節減及び残事業費の把握などコスト管理の徹底、④事業の切れ間がない中長期的な事業展開、これらの課題を踏まえ引き続きシステムの改良・充実に努めていきたい。

また、「ちゃくプロ」導入後、九州管内の一部の県においても同様の取り組みが行われ、今般、全国へ展開されることになった。

現在、「ちゃくプロジェクト2007」の公表に向け鋭意取りまとめ中であり、近々公表を予定している。今後ともニーズが高い九州管内の道路を着々と整備し、地域の方々の期待と地域の発展に一層貢献して参りたい。

付録：九州地方整備局ちゃくプロジェクト関係ホームページ

<http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/tyaku2/index.html>

参考文献

- 1) 「運輸政策研究」Vol.8, NO.2 2005 summer P15-22

